

Weekly report



株式会社 ミンカブ・ジ・インフォノイド
東京都東京都千代田区神田神保町3-29-1

為替週間展望＝ドル円は104～105円台を中心とするもみ合いか

〔9月28日からの1週間の展望〕

週間高低（カッコ内は日）		9月21日～9月25日			
始値	高値	安値	終値	前週比	
ドル・円	104.52	105.54(25)	104.00(21)	105.31	+0.74
ユーロ・ドル	1.1847	1.1872(21)	1.1627(24)	1.1674	-0.0166
=====					
国内株・金利／米国株・金利					
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	23,204.62	-155.68	日本10年債利回り	0.010	-0.005
ダウ平均株価	26,815.44	-841.98	米10年債利回り	0.666	-0.028
=====					

<来週の主要経済統計等>

- 28日 日本7月景気動向指数改定値
- 29日 独9月消費者物価指数速報値
 - カナダ8月鉱工業製品価格
 - 米7月S & Pケースラー住宅価格指数
 - 米9月消費者信頼感指数
- 30日 日本8月小売業販売額、日本8月鉱工業生産指数速報値
 - 中国9月製造業購買担当景気指数
 - 豪8月住宅建設許可件数
 - 中国9月財新製造業購買担当景気指数
 - 英第2四半期国内総生産（GDP）確報値
 - スイス9月KOF先行指数
 - 独9月雇用統計
 - ユーロ圏9月消費者物価指数速報値
 - 米MBA住宅ローン申請件数
 - 米9月ADP雇用統計
 - 米第2四半期国内総生産（GDP）確報値
 - 米9月シカゴ購買部協会景気指数
- 1日 日銀短観（9月調査）
 - スイス9月消費者物価指数、スイス8月小売売上高
 - 独9月製造業PMI確報値
 - ユーロ圏9月製造業PMI確報値
 - 英9月製造業PMI確報値
 - ユーロ圏8月生産者物価指数、ユーロ圏8月雇用統計
 - 米新規失業保険申請件数
 - 米8月個人所得・支出、個人消費支出（PCE）デフレーター
 - 米9月製造業PMI確報値
 - 米9月ISM製造業景況指数、米8月建設支出
- 2日 日本8月雇用統計、日本8月有効求人倍率
 - 豪8月小売売上高
 - 米9月雇用統計
 - 米9月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値
 - 米8月製造業受注

【前回のレビュー】ドル円はFOMCで緩和的な金融政策が長期化するとの見通しや、英中銀（BOE）がマイナス金利の導入に踏み切る可能性が出てきたことによるポンド円の下げが圧迫要因となって、ドル円は軟調な推移が継続するとした。

【リスク回避のドル買い円買いに】

新型コロナウイルスの欧州での感染再拡大が警戒されて、欧米株式市場の重石となっている。欧州ではフランスやスペインで感染者数の増加が続いている。春先にはロックダウン（都市封鎖）を行い、感染者数は減少に転じた。その後は外出規制を緩和したことや店舗の営業規制を緩めた。このところの感染再拡大を受けて、欧州の一部地域では再び制限を設ける動きが出てきている。

こうした動きを受けて、21日の欧米株は大きく下落して、NYダウは509ドル安と大幅安となった。この日、ドル円はリスク回避の円買いの動きから一時104.00円前後まで下落した。その後、米景気対策への不透明感や新型コロナウイルスの感染再拡大などへの警戒感もあり、リスク回避のドル買いの動きに傾いた。

ドル円は21日以降に上昇に転じて、24日には105円台半ばまで上昇した。ユーロドル、豪ドル/米ドル、ポンドドル、NZドル/米ドルなどがドル買いの動きから下落しており、クロス円もおおむね直近の高値圏から値を削っている。

米連邦準備制度理事会（FRB）のパウエル議長とムニューシン米財務長官は22日の議会証言で、財政出動による大規模な景気対策が必要であると強調した。米最高裁判事の後任を巡って、民主党と共和党の対立が深まっており、景気対策の協議も暗礁に乗り上げている。景気対策への不透明感は株安につながるとともにリスク回避のドル買いにつながりやすくなるとみられる。

月末から月初にかけては米雇用統計など、注目度の高い経済指標の発表が相次ぐ。米景気対策を巡る政局の不透明感やハイテク株の修正安の動きもあり、米国株は上値が重そう、ドルの下値を支えることとなりそう。一方でこれらの材料は円買いに材料ともなるため、ドル円は上値が重いものの、一方向に大きく動きにくいとみられる。

ドル買いと円買いの影響で、ドル円は方向感が出にくいとみられるが、新型コロナウイルスの感染再拡大は重石となりそう。ドル円は一時104.00円まで下落して、その後は値を戻している。ただ、リスク回避の動きが強まると、ドル買いよりも円買いに傾きやすくなる傾向が強いとみられ、104～105円台を中心とするもみ合いとなりそう。円買いが加速すると、104円を割り込む可能性も出てくる。ドル円の目先の予想レンジは、103.50～106.00円。

今後の日米の経済指標やイベントとしては、28日に日本7月景気動向指数改定値、29日に米7月S&Pケースシャー住宅価格指数、米9月消費者信頼感指数、30日に日本8月小売業販売額、日本8月鉱工業生産指数速報値、米MBA住宅ローン申請件数、米9月ADP雇用統計、米第2四半期国内総生産（GDP）確報値、米9月シカゴ購買部協会景気指数、1日に日銀短観（9月調査）、米新規失業保険申請件数、米8月個人所得・支出、個人消費支出（PCE）デフレーター、米9月製造業PMI確報値、米9月ISM製造業景況指数、米8月建設支出、2日に日本8月雇用統計、日本8月有効求人倍率、米9月雇用統計、米9月ミシガン大学消費者信頼感指数確報値、米8月製造業受注などがある。

【ユーロドルは軟調な流れに】

9月23日に発表されたドイツ、フランス、ユーロ圏の9月の製造業購買担当者景気指数（PMI）はいずれも製造業は回復傾向にあり、予想から上振れして、前回は上回った。一方で、非製造業はいずれも予想から下振れしており、前回も下回る結果となった。業種により新型コロナウイルスによる景気悪化からの回復状況が異なる状況となっている。

ユーロドルは下落基調で推移している。1.19台に乗せた後に下げに転じており、欧米株安などによるリスク回避のドル買いの動きから値を崩している。8月以降にサポートとなっていた1.17台前半で下げ止まらずに1.16台前半まで一時下落した。地合いの弱さは継続して、一段と下値を探る展開が見込まれる。ユーロドルは1.16近辺から下は目立ったポイントがないことから、大きな節目である1.1500ドルを視野に下落基調で推移することとなりそう。ユーロドルの目先の予想レンジは、

1. 1450～1.1750ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、29日に独9月消費者物価指数速報値、カナダ8月鉱工業製品価格、30日に中国9月製造業購買担当景気指数、豪8月住宅建設許可件数、中国9月財新製造業購買担当景気指数、英第2四半期国内総生産（GDP）確報値、スイス9月KOF先行指数、独9月雇用統計、ユーロ圏9月消費者物価指数速報値、1日にスイス9月消費者物価指数、スイス8月小売売上高、独9月製造業PMI確報値、ユーロ圏9月製造業PMI確報値、英9月製造業PMI確報値、ユーロ圏8月生産者物価指数、ユーロ圏8月雇用統計、2日に豪8月小売売上高などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については伴線を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。